

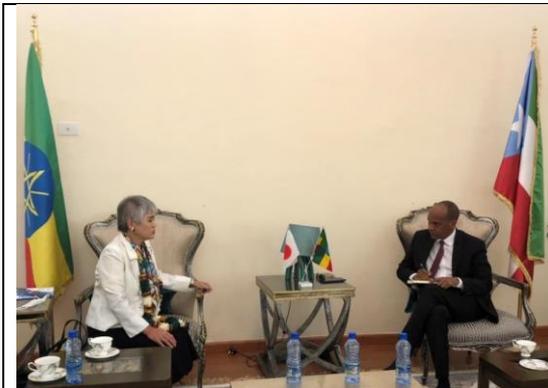
伊藤大使のソマリ州訪問

2021年3月17日、伊藤大使は、ソマリ州ジジガ市を訪問し、ムスタファ・ソマリ州知事と意見交換を行うと共に、当館、UNOPS、ソマリ州知事事務所との共同により、ソマリ州ジジガ市の州知事事務所で開催された「ソマリ州コロジ国内避難民 (IDPs) キャンプにおける水供給と衛生改善支援」事業の発足式に参加しました。

ムスタファ州知事との意見交換では、今後の日本との協力の可能性について、及びソマリ州の政治・経済・治安情勢についての意見交換が行われました。

UNOPS との共同事業は、エチオピアのソマリ州のコロジ・キャンプにおける国内避難民の水供給と衛生設備へのアクセスを改善し、新型コロナウイルス感染症の拡大の防止に寄与することを目的に、UNOPS に対して約 1.14 億円 (100 万米ドル強) を拠出するものです。同キャンプの女性と子供が大半を占める 2.4 万人の国内避難民を対象に、給水設備の整備、コミュニティ用の共同トイレの建設及び水衛生に対する意識向上のための衛生教育支援が行われます。また、エチオピアでは水汲みは女性の仕事とされていますが、給水設備の整備により、女性の労働時間の軽減及び社会活動への従事が促進され、女性の健康及び安全面での改善につながることを期待されています。なお、本事業は 2019 年に横浜で開催された TICAD 7 のフォローアップ案件です。

事業発足式において、伊藤大使は、本事業がエチオピアのソマリ州の対象地区の国内避難民の緊急ニーズを満たし、長期的な自立促進につながることを祈念すると述べました。また、ウォルクネッシュ UNOPS エチオピア事務局長兼 AU 代表及びムスタファ州知事より、我が国の支援に対する謝辞が述べられました。



ムスタファ・ソマリ州知事との意見交換



伊藤大使のスピーチ



ウォルクネッシュ UNOPS エチオピア事務局長兼 AU 代表のスピーチ



ムスタファ・ソマリ州知事のスピーチ